

消化器外科 I に通院中の患者さんへ（臨床研究に関する情報）

当院では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、通常の診療で得られた過去の記録をまとめることによって行います。このような研究は、厚生労働省の「臨床研究に関する倫理指針」の規定により、研究内容の情報を公開することが必要とされております。この研究に関するお問い合わせなどがありましたら、以下の「問い合わせ先」へご照会ください。

[研究課題名] AFP と PIVKA-II の積=AP-factor の肝細胞癌切除例における術前予後・再発予測因子としての意義

[研究機関] 北海道大学病院消化器外科 I

[研究責任者] 神山 俊哉 （消化器外科 I ・診療教授）

[研究の目的]

顕微鏡で評価できる組織学的門脈侵襲、分化度は肝細胞癌切除例の予後、再発に関係する不良因子ですが、これらは切除後の組織学的検査により診断され、術前に正確に知ることは不可能です。一方、AFP 値は肝細胞癌の分化度と、PIVKA-II 値は脈管侵襲と関連性が強いと報告されています。さらに、AFP 値と PIVKA-II 値の積（AP-factor）は、その両面を持つ可能性があるあります。この研究では、AFP 値、PIVKA-II 値単独と AFP 値と PIVKA-II 値の積（AP-factor）を術前に知り得ることが肝細胞癌を切除した患者さんの予後や再発を予測するのに役立つかどうかを検討します。

[研究の方法]

●対象となる患者さん

1998年1月から2011年12月まで北海道大学病院消化器外科Iで肝切除をおこなった肝細胞癌の患者さん

●利用するカルテ情報

性別、年齢、血液検査結果（血清アルブミン値、血清ビリルビン値、ICGR15、AFP 値、AFP-L3 値、PIVKA-II 値）、AP-factor（AFP 値と PIVKA-II 値から算出します）、腫瘍个数、腫瘍最大径、肉眼的血管侵襲、系統的切除の有無、肝硬変の有無、術後の経過（再発状況、無再発期間など）

[個人情報の取り扱い]

利用する情報からは、お名前、住所など、患者さんを直接同定できる個人情報は削除します。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も患者さんを特定できる個人情報は利用しません。

[問い合わせ先]

北海道札幌市北 14 条西 5 丁目

北海道大学病院消化器外科 I 担当医師 神山 俊哉

電話 011-706-5927 FAX 011-717-7515